

お彼岸をおかえて



夏の暑さはまだ続いています。秋のお彼岸の時期となりました。

秋分や 日の入り拝む 桑畑 (青淵)

畑作業のあと、夕陽に向かって手を合わせている様子が目に浮かびます。

お彼岸の中日は秋分の日であり祝日です。国民の祝日に関する法律では、秋分の日のことを「祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ」と規定されています。皆さまもお寺やお墓にお参りに行く機会が増えることでしょう。

「終活」という言葉は、二〇一二年の新語・流行語大賞トップテンに選出されて以来、すっかり一般的なものになりました。テレビ、ラジオ、新聞、書籍、ネットなど様々なメディアで取り上げられています。調べてみると、人生の最期を迎えるにあたっての準備や、そこに向けた人生のまとめを意味する言葉と書いてあります。具体的には、延命治療や財産分与、葬儀、ペットなどに始まり、お仏壇やお墓の準備までの、よりよい最期を迎えたいという思いが、現れてきているように感じます。ですが、肝心なことを忘れていませんか？ それは自らが、『どこに行くのか』と、いうことです。いままでいくつか終活の相談を受けたことがあります。行き先については、一度も尋ねられたことはありません。肝心の自分自身の行く先を決めていないのです。

誰もが必ず迎えるその最期の時、地獄に行きたいという方はおられないでしょう。迷いや苦しみのない極楽へ行くためには、お念仏を称えるしかありません。真西に太陽が沈みゆくこのお彼岸の一週間。夕陽の向こうにある極楽に想いをはせ、また先立たれた方を思い、しっかりと声に出して、より一層お念仏に励みましょう。

南無阿彌陀佛

令和五年九月



発行：浄土宗大阪教区教化団 (今回の法話担当 守口市 来迎寺 白川雅宏住職)
☆この法話内容はテレホン法話で、音声によってもお聴きいただけます(9月1日～9月30日)

【いつでも誰でも法話が聴ける・浄土宗大阪教区テレホン法話】
06-6771-7768 / 毎月1日に法話の内容が変わります

